Department of Advanced Practice in School Education

Shizuoka University Graduate School of Education 2021

静岡大学
Shizuoka University

子どもがスターになる、学校がステキになる。

教室にいる子どもたち。
色々な個性を持っています。

変わった生き物が好きな子、
大人よりもメカに詳しい子、
次々に「なぜ？」を投げかける子、
何にでも感心してしまう子、
休み時間に真っ先に校庭へ飛び出す子、
自分の考えに自信を持てない子、
声の大きな子、
黙々と辞典を読んでいる子、
洋楽ばかり聞いている子、
何かを「変えたい」と思っている子…。

先生は子どもたちの姿をみとり、
その個性を最大限に引き出し、
子どもたちは互いを尊重し合うこと
が出来れば、
学校ではいつも誰かが輝けます。
子どもたちがスターになる学校は
ステキです。
子どもたちと共に成長できる学校も
ステキです。
ステキな学校でステキな先生になり
ましょう。

静岡大学

実践的指導力を身につけた教員の育成

静岡大学大学院教育学研究科は、令和２年度から修士課程を教職大学院に一本化し、教育実践高度化専攻（教職大学院）と共同教科開発学専攻（博士課程）に改組されました。

教職大学院では、これまでも学校や地域の教育リーダーたる高度な専門的職業人としての教員を養成してきました。改組によってその機能をさらに充実させ、教育に対する使命感や倫理観等の教育的素養を高めるとともに、理論知と実践知とを往還・融合する新しい知識体系の構築に取り組み、授業力、生徒指導・支援力、教育課題対応力、学校改善リーダーシップの４つの資質・能力に基づく高度な実践的指導力を身につけた教員を育成します。

中・高等学校免許取得者が小学校免許を取得することができる小学校免許取得プログラム（履修年限３年）、静岡県・静岡市・浜松市教員採用試験合格者に採用の猶予が与えられる特例措置等、多様な学びに対応する履修制度も充実しています。また、愛知教育大学との共同による共同教科開発学専攻（博士課程）も設置されており、教職に関する研究者としての進路も開かれています。教育実践高度化専攻（教職大学院：専門職学位課程）は、教育実践開発コース（現職院生）、学校組織開発コース（現職院生）と教育実践力育成コース（学卒院生）に再編され、学校組織開発コースには「学校組織」の１分野が、教育実践開発コースと教育実践力育成コースにはこれまでなかった教科教育分野、幼児、養護、現代的教育課題の各分野を含めて７つの分野が設置され、院生の学びの指向性に応えられるように必修科目や選択科目が用意されています。

教育実践高度化専攻は新たに生まれ変わります。学部卒業者には、新しい学校づくりの有力な担い手として自ら積極的に取り組み、将来的にリーダー的役割を果たすことができる新人教員の養成を、現職教員には、地域や学校において指導的・中核的な役割を果たす高度で優れた実践的指導力を備えたスクールリーダーの養成を目指して指導体制を一新します。

教育学研究科長　江口尚純

教育学研究科の「求める学生像」

1　ディプロマポリシー

学校や地域の教育リーダーとして活躍できる高度な専門的職業人としての教員の養成を目的として，教育に対する使命感や倫理観等の教育的素養を高めるとともに，理論知と実践知とを往還・融合する新しい知識体系の構築に取り組み，教科の専門性や学習理論等に基づく授業力，教育心理学や臨床心理学等を踏まえた子ども理解に基づく生徒指導・支援力，現代的な教育課題に対応する教育課題対応力，学級や学校組織の協働化・活性化を図る学校改善リーダーシップに基づく高度な実践的指導力を身につけている者に教職修士（専門職）の学位を授与する。

2　カリキュラムポリシー

教育活動に積極的に取り組み，将来的に様々な教育分野でリーダー的役割を担うことのできる新人・若手教員，及び専門研修リーダーなど学校や地域の教育リーダーとして活躍できる高度な実践的指導力を備えた中核的な中堅教員の養成を目的として設計されたカリキュラムに基づいて，下記の科目区分のもと合計 46 単位以上を履修する。

1．教育に対する使命感・倫理観の教育的素養を高めるとともに，授業力，生徒指導・支援力，教育課題対応力，学校改善リーダーシップの資質・能力に関わる最新の教育動向等についての理解を深め，基盤的学力を身につけることを目指す「共通科目」（9科目18単位）
2．授業力，生徒指導・支援力，教育課題対応力，学校改善リーダーシップのいずれかに関わる専門分野に重点をおいて学びを深め，高度な実践的指導力を育成・向上することを目指す「分野科目」（7科目14単位以上）
3．個人が分野に関わる問題関心に基づいた教育課題を設定し探究することを目指す「課題研究」（2科目4単位）
4．「理論と実践の往還」を強く意識して「共通科目」，「分野科目」，「課題研究」での学びと連動させながら，高度な実践的指導力をより一層高めるとともに，専門分野に関わるリーダーとして活躍できる教員の養成をねらいとする「実習科目」（3科目10単位）

その上で，各分野に関わる実践的研究に専任教員の支援を受けて取り組み，その成果を報告書の形で提出する。

3　アドミッションポリシー

学部卒等大学院生については，「教員としての基礎的・基本的な資質能力を身につけていることに加え，他者と協働する力を備えていること」を，一定の教職経験を有し修了後に中核的中堅教員として活躍が期待できる現職大学院生については，「本専攻で学習する目的とねらいが明確であり，豊かな教科指導・生徒指導の実践経験を有していること」を求めています。また，学部卒等大学院生・現職大学院生双方に共通して，授業力，生徒指導力，教育課題対応力や学校改善リーダーシップの基礎となる理論と実践を往還させて，教育課題・組織課題を解決していく高度な実践的指導力を育成・向上したい人を求めています。

教育学研究科の組織図

教育学研究科

教育実践高度化専攻（教職大学院）

- 教育実践力育成コース
- 教育実践開発コース
- 学校組織開発コース

学卒院生
ストレートマスター
約 25 名

現職院生
約 20 名

共同教科開発学専攻（後期 3 年博士課程）

- 教育環境学分野
- 人文社会系教科学分野
- 自然系教科学分野
- 創造系教科学分野

8 名（各大学 4 名）

教育方法

分野の概略

現職院生と学部卒修了生をこれまでの 11 年間に 81 名（うち学部卒修了生 28 名）が修了し、県内外の小中高等学校、教育機関で活躍しています。学部卒修了生の人材育成の大きな目標は、単元レベルの授業研究を率先して行える授業力量を修得し、授業改善に貢献できるニューリーダーを育成することにあります。現職院生とともに、授業技術、授業分析、校内研修への参加を通して、実践的かつ学習科学、教育方法的な視点等から専門的に学びます。小中高等学校全ての校種に対応しているとともに、新学習指導要領に即したアクティブラーニング（主体的・対話的・深い学び）の視点、教科横断的なカリキュラム開発等（カリキュラムマネジメント）の方法論を通して、新たな学力観である資質・能力を育成する授業デザインの原理・原則について深めていきます。これまでにも静岡大学のみならず、他大学からの教育学部、理学部等からの進学実績があります。

分野の授業科目名とその内容

必修科目が 3 科目、選択科目が 6 科目あり、授業科目名は次の通りである。

○分野必修科目
- 校内授業研究の応用と評価
- 資質・能力を育む授業デザインの開発
- 授業と学習のメカニズム

○自由選択科目
- マイクロ・ティーチングによる授業実践演習Ⅰ（学卒対象）
- マイクロ・ティーチングによる授業実践演習Ⅱ（学卒対象）
- 学校研究コンサルテーションⅠ（現職対象）
- 学校研究コンサルテーションⅡ（現職対象）
- 教育実践の開発と評価

上記のうち、特徴的な授業科目の概略を次に示す。

【マイクロ・ティーチングによる授業実践演習Ⅰ（学卒対象）】
実習校における授業実践を念頭におき、指導案作成、模擬授業、省察と指導を繰り返すことで、授業実践の力を身につけます。提示された課題に対して短時間の模擬授業を行いながら、導入、課題提示、個人活動や小集団活動、まとめなどの段階ごとの指導や、発問・指示あるいは板書などの技能について学んでいきます。

【資質･能力を育む授業デザインの開発（現職･学卒共通）】
資質・能力を育む授業デザインについて、新学習指導要領で授業改善の視点として提示されている「主体的・対話的で深い学び」をキーワードに、その理論的背景についての理解を深めます。またそれが依拠している学習過程のモデルをふまえ、授業デザインしたり検討したりする活動を通して授業力を高めていきます。

学部卒院生研究テーマ例

・教職大学院実習における授業実践と省察との往還による授業力量向上に関する研究―小学校算数科の単元開発とその評価を通して―（県内小学校勤務）
・初任者教師の省察を基軸とした授業力量形成過程の研究―小学校国語科の単元開発と実践の取り組みを通して―（県外小学校勤務）
・実世界を数学化する教材開発に研究―公立Ｋ中学校におけるアクションリサーチを通して―（県内中学校勤務）
・理科を学ぶ意義の実感を目指した授業の効果―中学校，高等学校での授業実践を通して―（県外高等学校勤務）

教科教育

分野の概略

教科教育分野では、主に中等教育教員を目指す学生を対象として、教科の専門性の深い理解と実践に基づく授業力を育成することを目標としています。教科の授業力として、具体的には次の資質・能力を身に付けることを目指し、カリキュラムを設定しています。

ア　教科内容に関する専門的知識･技能や思考力･判断力･表現力等
イ　教科の専門性を踏まえた教材開発力、授業構成力等
ウ　教科内容の概念理解やつまずきに関する子ども理解力等

分野の授業科目名とその内容

必修科目が 3 科目、選択科目が 4 科目あり、授業科目名は次の通りである。

○分野必修科目
　教科横断的教育課程論
　教科学習論（領域名※）※人文系，自然系，創造系
　教材開発論（教科名※）
　※国、社、数、理、音、美、保体、技、家、英
○自由選択科目
　教科内容論（教科名※）※同上
　教科指導論（教科名※）※同上
　教科内容演習 A・B（教科名※）※同上
　教科教育専門研究 A・B（教科名※）※同上
　上記のうち，特徴的な授業科目の概略を次に示す。

【教科横断的教育課程論】
10 教科の教員とそれを統括する教員がオムニバス形式で行う授業で、自分の教科のみならず、他教科で育成する資質能力について理解を深め、教科横断的な視点に基づく教科指導力を身に付ける。

【教科学習論】
10 教科を人文系（国語、社会、英語）、自然系（数学、理科、技術、家庭）、創造系（音楽、美術、保健体育）の 3 領域に分けて領域ごとに行う授業で、それぞれの領域固有の子どものつまずきとその要因について理解を深める。

【教材開発論】
教科ごとに行う授業で、つまずきを克服したり、興味・関心を持たせたりする教材の開発力を身に付ける。

【教科教育専門研究 A・B】
教科ごとに行う授業で，教科内容から関心のあるトピックを選んで，教科内容に関する幅広い知識と教材研究を深めていく資質能力を身に付け，教科の専門性を高める。

教科教育　各教科の学部卒院生研究テーマ例

学生の興味関心に応じて，探究テーマを設定して，指導教員の指導の下でテーマを追究し，課題研究報告書としてまとめる。
各教科の探究テーマの例として，次のようなものが挙げられる。

国語	○中学校国語科における語彙力育成に関する研究 ○高等学校国語科における思考力の育成を重視した指導に関する研究 ○課題解決学習における評論教材の開発 ○言語文化学習における文学教材の開発	美術	○中学校美術科における表現及び鑑賞の題材開発に向けた基礎理論の研究 ○高等学校美術科における創造力と省察力の育成を目指した指導に関する研究 ○表現と鑑賞領域における美術・デザイン題材の開発及び研究 ○表現と鑑賞の一体化を意識した題材開発及び指導内容に関する研究
社会科	○社会科における子どもの資質・能力の育成の方法 ○社会科における教科観の創造 ○社会科におけるカリキュラムの内容構成の原理 ○社会科における社会的見方・考え方の形成を目指す単元の開発 ○社会科における人文・社会科学的アプローチに基づく学習の導入 ○市民的資質の育成を目指す教育における社会科授業のモデル化 ○高等学校地理歴史科・公民科における専門性を踏まえた教育内容・指導方法に関する研究	保健体育	○中学校・高等学校保健体育科における教科の見方・考え方を踏まえた教育内容・指導方法に関する研究 ○中学校･高等学校保健体育科における教科の特性･専門性（運動種目等）を踏まえた教育内容・指導方法に関する研究 ○体育学・運動学の深い知見を基にした生徒の身体・運動課題の発見とその解決方法の探究 ○保健体育の教育実践の場で活用する教材の開発
数学	○中学校数学科における数学的モデル化に関する研究 ○高等学校数学科における統合的な考え方の育成を重視した指導に関する研究 ○関数指導における小学校・中学校のつながりに関する研究 ○課題学習における幾何教材の開発～公理から始める幾何学～ ○理数探究における代数教材の開発 ～整数論における未解決問題～	技術	○中学校技術科における木材加工教育の方法および木質教材の開発に関する研究 ○技術教育における教材設計と評価に関する研究 ○数学・理科・技術の統合的な探究力の育成を重視した幼小中高大ものづくり教材の開発および指導に関する研究 ○中学校技術科教材における理科・数学概念の転移に関する研究
理科	○中学校理科における Society5.0 に応える理科授業の理論と実践に関する研究 ○高等学校理科における主体的な学び，対話的な学び，深い学びが創生される指導モデルに関する研究（物理領域，化学領域，生物領域，地学領域） ○理科指導における小学校・中学校のつながりに関する包括的研究 ○物理・化学・生物・地学と数学工学を包含した領域横断的な課題探究型学習の開発 ○日本と諸外国の比較を基にした 21 世紀型資質・能力の比較と日本モデル創生	家庭科	○中学校家庭科における生活科学・生活文化・健康科学に関する研究 ○高等学校家庭科における人間形成と健康科学に関する研究 ○人間と環境に関する科学教材の開発 ～安全と健康，文化について～ ○社会と家庭生活の生活課題解決に関わる教材の開発 ～持続可能な生活と環境～
音楽	○フースラーの理論に基づいた歌唱指導法の研究 ○音楽科授業における変奏曲の有効性 ○合唱曲におけるピアノ伴奏の重要性 ～歌詞との関係に着目して～ ○シラブルを応用した管楽器指導法の開発 ～倍音を指標とした音響分析方法を用いて～	英語	外国語の教授・学習に関する英語文献の講読等を通じて，実践を複眼的に捉え直すための理論的知識を深め，学習者の知識や技能，興味関心に合わせて質の高い授業づくりのできる奥行きのある指導技術を身につけることを目指す。課題研究においては，指導教員の指導のもと，学生の興味関心に応じた探究テーマが設定でき，英語科教育の諸課題に加え，英語学や英語文学・異文化理解など関連分野の発展的な知見を活かし，例えば意味や使用場面のつながりを意識した言語材料の導入や多様な言語体験を通じた主体的・協働的な学習といった，時代が求める英語指導上のテーマに応用する取り組みを行うことができる。

生徒発達支援

分野の概略

子どもは様々な支援ニーズを持っている。例えば，学校では支援ニーズの高い生徒に対して心理的な支援だけでなく，キャリア教育も含めた学習支援も同時に行う。こうしたことからも，日々成長していく子どもに対して様々な角度からの支援を提供できる人材が求められていると言える。本分野では，教育心理学、発達心理学や臨床心理学の理論を学びながら，それに基づいて個別、学級、そして学校全体を対象として、生徒指導，発達・学習支援等を遂行できる指導・支援力を育成していく。なお，分野の学生で希望すれば，必要な単位を取得することで「学校心理士」の受験資格が得られる。

分野の授業科目名とその内容

必修科目が３科目，選択科目が４科目あり，授業科目名は次の通りである。

○分野必修科目
　学校心理学の理論と方法
　臨床心理学の理論と方法
　発達心理学の理論と実際

○自由選択科目
　学習支援の理論と実際
　心理アセスメントの理論と実際
　学校コンサルテーションの理論と実際
　生徒指導・教育相談の理論と実際

上記のうち，特徴的な授業科目の概略を次に示す。

【学校心理学の理論と方法】
学校心理学における生態学的モデルに基づいた心理教育的アセスメントやチームによる支援に関する基礎理論を学ぶ。また、いじめや不登校などの予防につながるソーシャルスキル教育等の授業で効果をあげるために必要な基礎理論や学級や学校体制の構築などを扱う。さらに災害やいじめ重大事態などの学校危機発生時におけるアセスメントや支援の支援内容も取り入れ、様々な子どものニーズ、かつ様々な状況において、個別および集団に対応できる基本的な理論や実践力を身につける。

【臨床心理学の理論と方法】
児童生徒の発達過程を踏まえ，それぞれの発達段階において直面するリスクを臨床心理学的な観点から理解する。また，そうした困難を経験し，“問題”と言われるような行動などを抱えることになった児童生徒への援助方法を様々な心理療法の理論と方法を用いて検討し，学校現場で実践する力とスキルの獲得を目指す。加えて，医療，福祉，司法・矯正領域など近接領域における子どもの心理的な課題や臨床心理学的援助についても学び，連携協働を進める力も身に付ける。

課題研究の特色

課題研究では，学生の興味関心に基づく探究テーマに応じて，指導教員の指導の下でテーマを追究し，課題研究報告書としてまとめる。探究テーマの例として，次のようなものが挙げられる。

○いじめや不登校を予防するソーシャルスキル・レジリエンス教育の授業実践
○チーム支援が円滑に進むための校内体制の構築とそのマネージメントについて
○発達段階に応じた子どもの共感性を育てる学校での支援について
○学校教育目標を活かした子どもの心を育てる学校体制に関する研究
○様々なニーズのある子ども（LGBTQ、貧困等）へのチーム学校による支援
○学習意欲が低下している子どもの動機づけを高める授業での支援

特別支援教育

分野の概略

小・中学校には発達障害が疑われる児童生徒が 6.5%在籍しているといわれている。また，2012 年には中央教育審議会によって「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進」が提言されている。このような状況にあって，特別支援教育に対する教育界の期待はますます高まっており，専門性の高い教員の育成が求められている。

特別支援教育分野ではこの使命のもとに，現職大学院生においては特別支援教育に関する高度な知識・技能を備えるとともに，学校や地域でのリーダーとして活躍できる資質・能力の習得を目指す。学卒大学院生では障害の種類・程度に応じた子ども理解に基づく支援や指導等を遂行する指導・支援力を育成することを目指している。

分野の授業科目名とその内容

必修科目が 3 科目，選択科目が 4 科目あり，授業科目名は次の通りである。

○分野必修科目
　発達障害の理解と対応
　特別支援教育の現状と課題Ⅰ
　特別支援教育における授業デザイン
○自由選択科目
　障害児の認知発達とその支援
　発達臨床・特別支援の実践から学ぶ
　特別支援教育の現状と課題Ⅱ
　ユニバーサルデザイン授業論

上記のうち，特徴的な授業科目の概略次に示す。

【発達障害の理解と対応】
ASD，ADHD，LD を代表とする発達障害，知的障害，情緒障害などに関する心理，病理からの解説，特性等の理解を深める。概要や一般的事項の整理を行った後，それらの知識や知見を同僚や保護者，子どもと共有できるレベルまで具体化していく。また，それに基づく対応について講義する。対応は，心理，学習，認知，行動，身体など他側面からのアプローチで考えていく。教室でできる支援，個別での支援，関係機関が行う支援など，詳細を紹介していく。

【ユニバーサルデザイン授業論】
特別支援学校，特別支援学級，通級による指導での授業実践について学ぶと共に，通常の学級で特別な教育的ニーズのある児童生徒をインクルードできる学級経営や授業づくりの基礎を学ぶ。まず，発達障害等のある児童生徒の学習上の特性や行動特徴，情動調整の難しさ等を理解し，次に実際の授業の場面ではどのような困難さを示すのか授業記録から具体的に学ぶ。あわせて，生活年齢や発達段階ごとに顕在化する困難さも理解を深め，授業に参加を支えるための支援や思考を深めるために必要な支援の具体を学ぶ。

学部卒院生研究テーマ例

課題研究では，指導教員の指導の下で院生が自ら設定したテーマを追究し，課題研究報告書としてまとめる。探究テーマの例として，次のようなものが挙げられる。

○小学校の通常の学級におけるクラスワイドな支援と個別支援
○通常の学校に在籍する肢体不自由のある子どもの指導
○中学校と特別支援学校高等部の連携・接続に関する研究
○特別支援学校におけるＡＳＤのある生徒への情動調整を目指した支援

幼児教育

分野の概略

幼児教育分野では，子ども理解に基づく支援や指導の背景にある理論の探究とともに，子ども，保護者，保育者を取り巻く激しく変化する社会の問題や課題（教育・保育政策，幼児教育の多様性，乳幼児の権利保障・擁護，子どもを取り巻く文化，保護者を取り巻く環境，学校種間の接続，ESD（持続可能な社会の担い手を育む教育）など）に焦点を当て，問題や課題解決に向けた高度な実践的指導力を身につける。

分野の授業科目名とその内容

必修科目が３科目，選択科目が６科目あり，授業科目名は次の通りである。

○分野必修科目
　幼児教育の現状と課題
　乳幼児音楽概論
　乳幼児の権利と幼児教育・保育

○自由選択科目
　子どもの育ちと文化
　乳幼児期の保育と音楽教育
　幼児教育課程と ESD

上記のうち，特徴的な授業科目の概略を次に示す。

【乳幼児音楽概論】
保育内容のうち領域「表現」の主に音楽分野に焦点を当て，乳幼児期の基本的な音楽的発達やその意味について，主として乳幼児の映像資料や文献，および観察などを通して学ぶ。また，乳幼児期の音楽的発達に関する関連分野の文献の輪読や検討を通して，この研究分野のこれまでの研究成果および研究の動向について理解する。それらの周辺学問分野を含めた理論的背景をもとに，実際の保育内容や乳幼児の発達と遊びを関連づけて理解を含める。

【乳幼児の権利と幼児教育・保育】
　子どもの権利条約における子ども，特に乳幼児の権利保障・擁護を具体化していくことは，幼児教育・保育分野における実践的・政策的な課題である。幼児教育・保育の実践や政策を，家庭教育や保護者の労働・生活との関連で捉えるとともに，人権・権利の主体者，そして社会の形成者として子どもを育てるという課題から評価し，構想する。

【幼児教育課程と ESD】
ユネスコスクール（ESD の推進拠点校）の実践の分析を通して，幼児教育の基本（「環境を通して行う教育」，「遊びを通しての総合的な指導」）を確認し，現代社会で必要とされる幼児教育の内容や幼児教育課程について考察していく。また，新たな知見をもとに，幼児教育，生活科，総合的な学習の時間におけるプロジェクト（単元）を作成する。

学部卒院生研究テーマ例

課題研究では，学生の探究テーマに応じて，指導教員の指導の下でテーマを追究し，課題研究報告書としてまとめる。探究テーマの例として，次のようなものがあげられる。

○うさこちゃんシリーズから見る子どもを取り巻く環境と子どもの成長：ブロンフェンブレンナーの生態学的モデルに基づく分析
○アンカーポイントとしてのこども園の役割：清沢こども園の実践から考察して

養護教育

分野の概略

養護教育分野は，現代的な教育に不可欠な課題への対応に必要な学校保健，安全・防災教育，学校環境など多岐にわたる分野と連動させながら資質を育成・向上することを目的としている。そのためには，発達段階に応じた子ども理解に基づく保健教育，保健管理等を遂行する児童生徒指導・支援力が必要となる。特に，これらの問題解決に欠かせない基礎的かつ専門的な資質であり，反省的思考，創造的思考を，それぞれの問題解決を通して高めるよう，カリキュラムを設定している。
高度化実習では，研究成果が実際の実習校での養護実践と連動し，理論と実践の往還を図ることも企図している。

分野の授業科目名とその内容

必修科目が３科目，選択科目が４科目あり，授業科目名は次の通りである。

○分野必修科目
　学校保健の現状と課題
　学校における危機管理
　養護教諭の教育実践の実際と課題

○自由選択科目
　養護教諭の行うアセスメント方法と課題
　病気の子どもの理解と養護教諭の対応
　養護教諭が行う健康教育の実践と課題
　健康相談の実際と課題

上記のうち，特徴的な授業科目の概略を次に示す。

【学校保健の現状と課題】
学校保健領域（ 保健教育，保健管理，組織活動 ）の変遷や学校保健に関する先行研究を踏まえ，課題を分析する視点や方法について探求する。具体的には，保健管理や学校 環境衛生，保健教育や食育，安全教育，性教育等に関する文献調査および調査結果を 踏まえ，学校保健の変遷に関する歴史的な背景や現状についても考察する。

【養護教諭の行うアセスメント方法と課題】
養護教諭が保健室に来室した児童生徒のアセスメント方法の実際と課題に着目し，背景理論とアセスメントの実際を関連付けながら理解を深める。養護教諭のアセスメントの在り方について，理論と実践を往還させながら新たな方法論を探究し資質･能力を高める。

学部卒院生研究テーマ例

課題研究では，学生の興味関心に応じて，探究テーマを設定して，指導教員の指導の下でテーマを追究し，課題研究報告書としてまとめる。探究テーマの例として，次のようなものが挙げられる。

○小学校・中学校における保健教育の教材の開発
○養護教諭の行う学校における危機管理の実際
○学校環境における人間関係がメンタルヘルスに及ぼす研究
○児童生徒のアセスメント方法の再検討
○養護教諭の行う健康教育の課題

現代的教育課題

分野の概略

ESD，国際理解教育，ICT の活用，リスク社会での安全など，今後の持続可能な社会創出に向けて欠かせない困難な現代的諸課題への対応や多様性を増す学校教育に必要な資質を育成・向上する。特に，SDGs 達成に欠かせない基礎的な資質であり 21 世紀を生きる次世代に欠かせない資質である反省的思考，創造的思考を，それぞれの問題解決を通して高めるよう，カリキュラムを設定し，現代的課題への高い対応力を持った教員養成を目指している。高度化実習では，課題研究のテーマに関連した授業実践なども含めて，理論と実践の往還による資質向上を目指す。

分野の授業科目名とその内容

必修科目が 3 科目，選択科目が 6 科目あり，授業科目名は次の通りである。

○分野必修科目
　現代的教育課題への道標
　リフレクティブ・シンキング演習
　クリエイティブ・シンキング演習
○自由選択科目
　国際理解教育
　道徳
　ICT による学習環境の構築
　社会参加による ESD 実践
　対話的な学びと言語活動
　学校における危機管理

上記のうち，特徴的な授業科目の概略を次に示す。

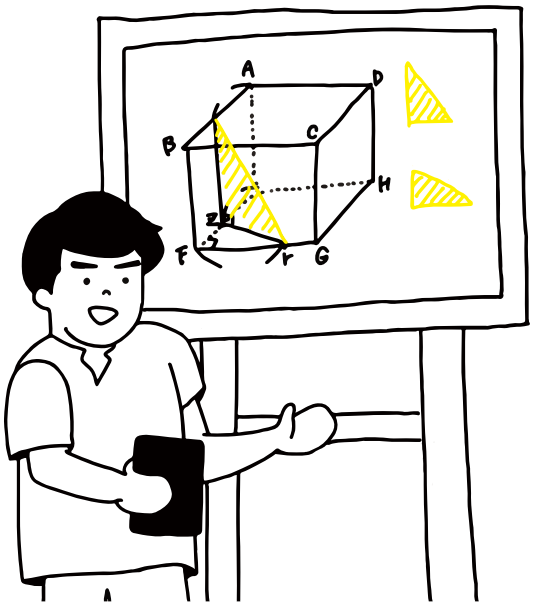
【リフレクティブ・シンキング演習】
本演習では，教育の現代的課題解決の中核となるコンピテンシーである反省的思考を理解するとともに，児童生徒の反省的・批判的・協調的思考を高めるための教育方法や評価方法について議論するとともに，個々の現代的課題を題材とした演習を行い，受講生自らがそれを獲得し，自らの教育実践，研究活動に活かすことを目指す。

【クリエイティブ・シンキング演習】
教育の現代的課題解決に不可欠のコンピテンシーの一つである創造的思考（新たな価値の創造や効果の確立していない方法を生み出す力）を理解するとも，その教育方法と評価方法について検討するとともに，個々の現代的課題を題材にした演習を通して，受講生自らがそれを獲得し，自らの教育実践，研究活動に活かすことを目指す。

学部卒院生研究テーマ例

課題研究では，指導教員の指導の下で学生が自ら設定したテーマを追究し，課題研究報告書としてまとめる。探究テーマの例として，次のようなものが挙げられる。教科開発にもつながるこれらのテーマ探究を下に，本学が共同で設置している博士課程大学院への進学の道も開かれている。

○学校におけるリスクコミュニケーションの在り方と課題
○学校におけるマイノリティーを巡る諸課題
○学校の文脈におけるスポーツの高度化とインテグリティーを巡る問題
○ジレンマ解決を軸とした道徳教育
○学校教育における国際理解教育の実践
○学校における居場所づくりと深い学びについての課題



学校組織

分野の概略

今日の学校の直面する課題の多くは学校を挙げての組織的対応が必要なものであり，教員個人の力量のみで対応可能な課題は限られている。学校組織開発コースは，新たな社会のあり方を見据え，それに対応できるように学校を変革していくことのできるリーダーの育成を目指している。より具体的に本コースで育成するのは次の３つの能力である。

○法規や政策と社会動向，学校教育に関連する基礎理論の理解
○学校の目指すべき将来ビジョンを描き，それに向けて計画を組織的に策定する力
○前例踏襲主義と決別して，他の教職員を巻き込んで行動に移していく力

分野の授業科目名とその内容

この目的のために，学校組織開発コースでは，すべての教育活動を相互に有機的に関連づけながら，体系的に配置されている。学校組織開発コースでは分野が細分化されておらず，また必修科目が多く設定されていますが，これは科目間のヨコのつながりを保障し，同時にコースに所属する大学院生相互の学びを促進するためである（修了要件の枠外で他コースの科目を選択することは可能）
専門科目は下記の通りであり，修了のためにはこれらの科目をすべて履修することが必要である。

○分野必修科目
　教育政策の流れと学校論
　教育法制度の理論と実際
　学校改革の理論とリーダーシップ
　成人の学習の事例と理論
　学校と地域の協働
　夢の学校づくり・学校改善への実践論

尚、学校組織開発コースでは「学校等改善支援研究員」のシステムを導入している。これは学校および教育委員会において，教員と大学院生がチームを組み，現場の改革課題の解決に実際に取り組みながらリーダーシップのあり方を学ぶためのしくみである。学校組織開発コースの志願者は入学試験の願書提出時に，所属校の教育委員会の教育長に「学校等改善支援研究員」としての実習の受け入れ承諾を得ることとなっているが，これはアクションリサーチの実施に当たって，学校改善への参画を円滑にしていくための手立てである 。
学校組織開発コースの課題研究は，すべてこの「学校等改善支援研究員」としての活動実績に基づき，これを全国の施策や研究の動向と関連づけて作成する。

＊「学校等改善支援研究員」は令和元年度文部科学省の「グッドプラクティスの共有と発信に向けた事例集」に採用されています。

入学者の内訳

令和２年度

36名

静岡大学	他大学	現職教員
13 名	5 名	18 名
36.1%	13.9%	50.0%

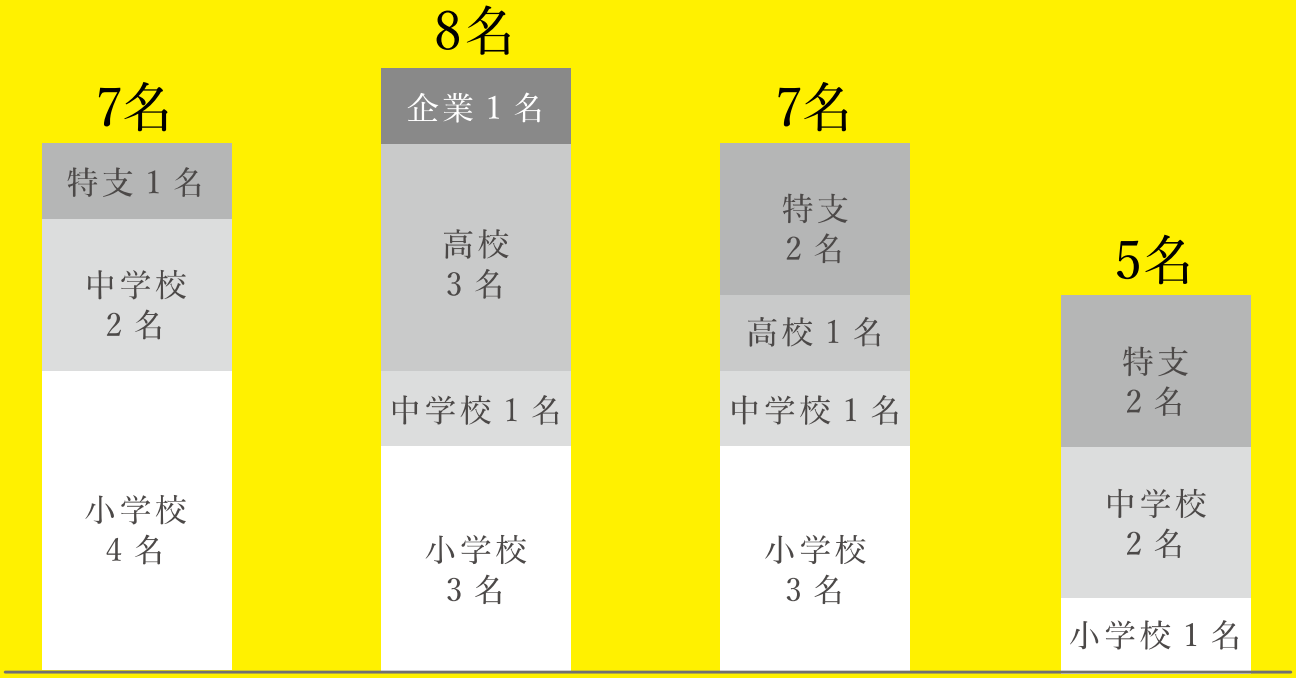
令和元年度

22名

静岡大学	他大学	現職教員
4 名	3 名	15 名
18.2%	13.6%	68.2%

修了後の進路状況

（現職教員入学者を除く）　（H28～R1 年度実績）

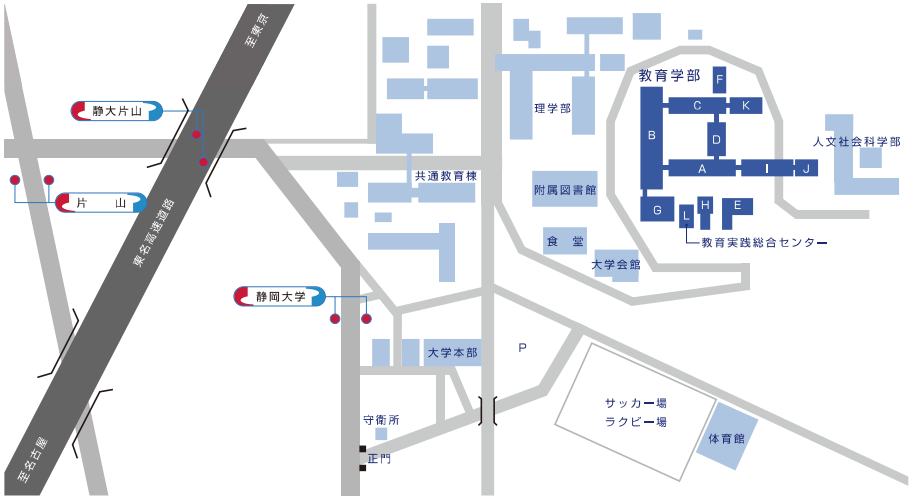


MAP

交通機関

JR静岡駅北口のしずてつジャストラインバス8番 Bのりばから美和大谷線「静岡大学」行き、「東大谷」（静岡大学経由）行き、「ふじのくに地球環境史ミュージアム」（静岡大学経由）行きに乗車し「静岡大学」又は「静大片山」で下車。
美和大谷線「東大谷」（静岡大学を経由しないもの）行きに乗車した場合は、「片山」で下車。（所要時間25分、1時間に5～7本運行）

CAMPUS



国立大学法人
静岡大学
http://www.shizuoka.ac.jp/

発行者：教育学部学務係（教育学部D棟4階） 〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836 TEL 054-238-4579